



国土交通省 関東地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Kanto Regional Development Bureau

平成 29年 3月 24日

国土交通省 関東地方整備局

港湾空港部

記者発表資料

～国際コンテナ戦略港湾・京浜港～

「第5回群馬県荷主意見交換会」を開催しました

関東地方整備局では、荷主の視点から京浜港の利便性向上を図り、利用促進に繋げるべく、海上コンテナ輸送を利用する荷主企業を対象に、物流効率化等に関するニーズの把握、港湾での取組に関する情報発信、企業間の情報交換等を目的として、「荷主意見交換会」を平成23年度から開催しています。

平成29年3月7日に群馬県高崎市において、「第5回群馬県荷主意見交換会」を開催しました。同会には、群馬県の荷主企業と京浜港の港湾関係行政機関が出席し、国際コンテナ物流の課題や効率化等について意見交換を行いました。意見については、今後の国際物流効率化への取組に反映させていくことを相互に確認しました。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ・神奈川建設記者会・横浜海事記者クラブ・物流専門紙・その他専門紙

問い合わせ先

関東地方整備局 港湾空港部 港湾物流企画室

室長 今野 頼夫 (こんの よりお)

専門官 田口 由美子 (たぐち ゆみこ)

電話 045-211-7437 FAX 045-211-0204

「第5回群馬県荷主意見交換会」の開催結果

■開催日時 平成 29 年 3 月 7 日（火） 14:30~16:30

■開催場所 高崎市労使会館

■参加企業（※五十音順）

（荷主企業）

株式会社コメリ、三恵技研工業株式会社、サンデン・ビジネスエキスパート株式会社、サントリービジネスエキスパート株式会社、信越化学工業株式会社、株式会社スバルロジスティクス、日本ミシュランタイヤ株式会社、ピー・アンド・ジー株式会社、他 1 社

（物流事業者）

株式会社太田国際貨物ターミナル、早川海陸輸送株式会社（計 11 社）

■議事

- （1）国際コンテナ戦略港湾政策と物流効率化の取組について
- （2）内陸輸送効率化の取組事例（株式会社太田国際貨物ターミナルより事例紹介）
- （3）各企業の国際物流動向に関する意見交換

■主な意見

（渋滞対策）

- ・ 東京港の早朝ゲートオープンを継続し実施してほしい。
- ・ 今後運用開始される東京港ストックヤード等、新たな渋滞対策の取組に注目している。

（コンテナマッチング）

- ・ 国際コンテナ物流においては海上輸送よりも内陸輸送の運賃が圧倒的に高く、内陸輸送効率化のため、高速道路利用や夜間輸送等、道路を如何にうまく使っていか議論が必要である。
- ・ コンテナマッチングは、船社にとってメリットを見出しにくいことから船社の協力を得るのが難しいが、荷主としては、ドレージ輸送効率が良いコスト削減効果があるため、推進したい。
- ・ コンテナマッチングを実施したが、ダメージコンテナへの対応、ドレージ業者や通関業者の調整が必要等、様々な課題があることから、内陸デポを運用に取り込めないか検討している。

（鉄道輸送）

- ・ トラックドライバー不足から、鉄道輸送の重要性が高まっている。欧州港湾のようにオンドックレール化を進め、コンテナ貨物の鉄道輸送を推進してほしい。

（その他）

- ・ ターミナルが休みの日に工場稼働することがあり、輸出用コンテナを前倒しで手配している。ターミナルを柔軟に開けてくれると、こうした課題解消に繋がる。

■会議状況

